
Stupid ! ' シュン

伊咲 知里

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Stupid ! ・ シュン

【Nコード】

N5387P

【作者名】

伊咲 知里

【あらすじ】

いつのまにか酒がうまいと感じる年齢になっていた。それなのに周りの奴らは相変わらずのバカばかりで、そんなバカに囲まれてる俺も大概バカなわけで。

いつもぐうたらな生活を過ごしていた。夜になれば、『青春』なんてふざけたな名前の居酒屋で友達と浴びるほど酒を飲んで、朝か夜かもわからない境目の時間に店を出る。朝日が出れば眼を細め、馬鹿な奴らが「俺、吸血鬼だから死ぬわ」とこれまた馬鹿な笑い声をあげて言うんだから、どうしようもない奴らの集まりだ。

「おい、シユン」

叫んでいる奴らの後ろから眺めていると、その団体からいつの間にか外れ俺の隣に立って言った。

「なに」

視線は前の団体を捕えながら、隣に立つソウに無愛想に声を出す。

「お前、最近彼女とうまくいってないって？」

「…お前ってほんつと男には優しくないのな」

「俺の溢れ出る優しさは女の子限定ですから」

「この、フェミニストが」

そう言うソウはきれいな顔を少し歪めた。…この腹黒野郎が。

「で、どうなの？」

「どうもこうも。普通、だよ」

なにが普通だよ、と自分でもツツコミを入れたくなる返答に苦笑した。

このやりとりを見ていたのか、前の馬鹿な軍団改め悪友たちが一斉に振り向いた。もう、嫌な予感しか頭によぎらない。

「何、シユン。フられたの？」

「うつせえーよ」

まだだっつーの。

「いや、まだらしいよ」

そう言い放ったのは隣のソウだ。

ってか、なんも言ってないだろうが。

「じゃあさ、じゃあさ。いま彼女に電話しよーぜ」

大概、こう言い出す奴は、無神経でモテないって相場が決まってるのに、ソウは例外なんだからおそろしいよな。

「馬鹿。今、何時だと思っただよ」

「恋に時間なんて関係ねえー！」

「いや、カナメくん？ 普通に時間は関係あるからね」

「シユンは真面目過ぎるんだよ。男ってのはなあ、『俺についてこい！』っていう男らしさが必要なんだよ」

かわいい顔して野獣のようなカナメは、持論をのうのうと言った。ただの酔っ払いの戯言ともいう。そんな戯言に耳を傾けてやってる俺はなんて優しいんだろう。

「…カナメはそういうキャラだからじゃない？」

「ソウこそそつち系でしょ？」

ソウとカナメがきゃひきゃひと笑い声を立てて言うもんだから、まわりのアホたちもここぞとばかりに盛り上げようとする。

…冗談じゃない。

「じゃ、俺明日学校だし、もう行くわ」

店を出たのはついさっきだというのに、もう随分前のように感じる。時間の流れが狂っているのか、それとも酒にやられたこの頭が狂っているのか。そんなクレイジーな考えを導き出している時点で俺の脳はもうお手上げ状態だということに気づきもしない。

「ええー。二軒目行かないのかよ」

「今何時だと思ってんだよ。お前ら勝手に行けよ」

そう言つて団体から一歩踏み出し、抜ける。軽く手を挙げて帰る仕事草をしながら。

「シユン」

後ろから少し大きな声で呼ばれ、思わず振り向くと馬鹿な奴らがどいつもこいつもいやらしい顔を浮かべていた。

「いいから、早くふられてこいって」

ほんつとにやな奴らだよ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5387p/>

Stupid!' シュン

2011年11月16日13時57分発行